

研究機関で雇用する特別研究員-PD等の育成方針

特別研究員制度の目的は、優れた若手研究者に、その研究生生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、日本の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することである。

山口大学においても、上記目的に沿った若手研究者の育成は学術研究を持続的に発展させていくためにも、重要であると考えます。本学では「明日の山口大学ビジョン 2030」の研究ビジョンにある「若手研究者が研究に専念できる環境づくり」「高度な技術で、より研究しやすい環境に」「誰もが研究の設備が使える環境づくり」を目標とする研究環境づくりを行う。その環境のなかで、自発的な発想にもとづく個性的・独創的な研究をはぐくみ、旺盛な知的探求心の活性化につとめ、地域や社会の要請に応じた新領域の開拓、また国際的な視野を持てる人材育成を行っていく。

また、女性研究者の育成にあたっては、出産・育児等のライフイベントを考慮し、研究活動との両立支援の充実を図る配慮を行い、女性研究者が活躍できる環境のなかで、その能力を十分に発揮しつつ研究活動を行ってもらおう。

○山口大学における取組

①若手研究者育成に関する取組

- ・研究者間の異分野交流を通して、学際的な研究拠点の形成につながる「山大研究者トーク」の実施*
 - ・研究者育成セミナーの実施（プレゼン資料作成や研究室運営など）*
 - ・学内の知り合いづくりを応援するプロジェクト「山大 100 人論文」（研究・事業紹介を行い、見る側がコメントすることで、分野を超えた研究者同士の交流を行う）
- *地方協奏による世界トップクラスの研究者育成（HIRAKU-Global）関連事業
- 『自分の研究室を運営し、学生を育てつつ、さまざまな分野の国内外の研究者と連携し、独自の研究感性を磨き、世界でもユニークな研究を牽引していくことができる研究人材』の育成を目指す事業

②研究環境に関する取組

- ・URAによる各種支援（研究資金獲得のためのアドバイス・申請書のブラッシュアップ等）
- ・科研費採択に向けた支援（ブラッシュアップ・不採択の場合の研究費支援等）
- ・英文校閲費用支援
- ・論文投稿料支援
- ・最適な研究設備・機器の利用（研究機器共同利用）
- ・研究機器利用サポート制度（利用料金支援）
- ・競争的資金、研究助成金等の情報提供

③女性研究者に関する取組

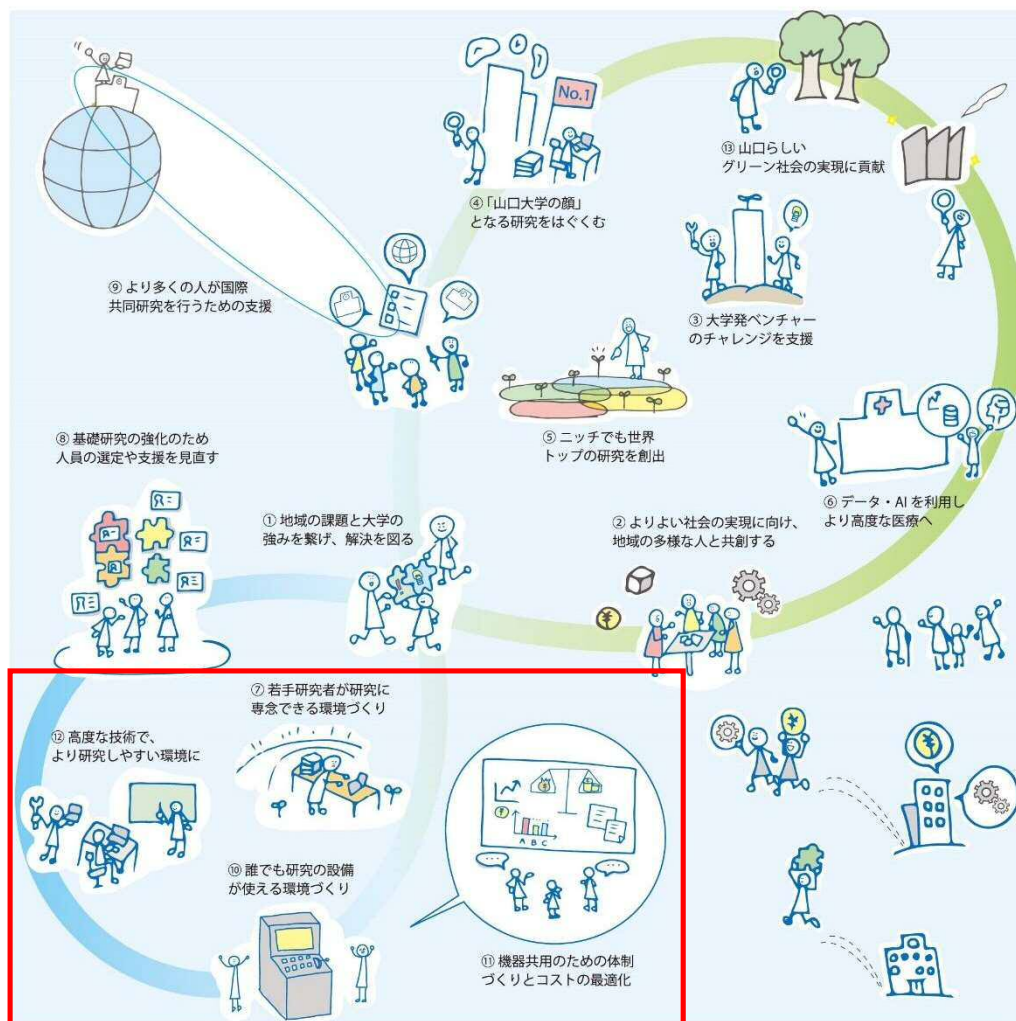
- ・研究補助員制度（学生による研究補助）
- ・夏季冬季長期休業中の学童保育

- ・ 病児保育施設等利用助成制度
- ・ 遠距離介護支援制度（法人契約を行っている支援団体による代行支援等）
- ・ カウンセリング相談制度

研究 VISION

様々な社会ニーズの変化にシなやかに対応し、イノベーションをもたらす知を創出し続けます。そのために、総合大学の強みを活かして学際的な知を集め、産学公の連携により、地域活性化に繋がる産業拠点の形成に寄与できる地域イノベーション・エコシステム※2の構築を図るとともに、世界をリードする研究領域を創造します。

総合大学の知を集め、“イノベーションの連鎖”を地域から世界へ



地域とともに課題に取り組み、世界に誇れる研究で社会課題を解決していく。地域・世界との繋がりが広がり、イノベーションの連鎖が限りなく続いていく様子を表現しました。 by SIGNAL

1 地域イノベーション・エコシステム※2の構築

産学公連携により地域課題プル型のオープンイノベーションをより強力に推進するために、「やまぐち型地域共創システム」を構築します。

1. 地域の課題解決に向けた「やまぐち型地域共創システム」の構築

地域課題と大学保有のシーズを基に、産学公で共有した地域ビジョンの観点から研究開発プロジェクトを創出し、適合性評価を経て、地域を実証フィールドにした研究開発を行い、その成果を事業化に繋げる「やまぐち型地域共創システム」を構築します。

2. トップダウン型産学公連携研究拠点※9の整備

「やまぐち型地域共創システム」から生まれた研究開発プロジェクトの中から、継続的に顕著な社会的インパクトの創出が期待できるプロジェクトをトップダウンで認定し、人材・知・資金が循環する地域イノベーション・エコシステム※2の中核拠点として整備します。

3. 地域企業・自治体等との包括連携の強化・拡大と大学発ベンチャーの創出機能の強化

地域イノベーション・エコシステム※2の基盤を強固にするために、地域企業・自治体等との包括連携の強化・拡大を行うと同時に、ギャップファンド※10を創設する等、大学発ベンチャーを次々に生み出すための機能を強化します。

2 世界をリードする研究領域の創造

個性的かつ競争力のある研究への重点支援を行うことにより、世界をリードする研究領域を創造します。

4. 大学附属研究所の充実と新設

本学の特色である時間学研究所における文理融合の研究活動を発展・進化させるため、多岐に渡る学内外の研究者の新規参画を進め、研究組織を充実させます。また、トップダウン型産学公連携研究拠点※9等の独創的研究に重点支援を行い、世界をリードする大学附属研究所新設へと導きます。

5. 研究拠点の組織改革

研究分野の選択と集中による研究拠点の大胆な組織改革を行い、世界レベルの研究競争力・産学連携力を有するグローバルニッチトップ研究※11拠点を創出します。

6. 多様な臨床データの活用によるAIシステム医学研究領域の創造

AIシステム医学・医療研究教育センターを充実させ、附属病院の電子カルテ、各診療部門システムから得られる多様な臨床データを最大限に活用して、医用AI技術を研究開発し、新しいAIシステム医学研究領域を創造します。

7. 山口大学版テニュアトラック制度※12の拡充

創造性豊かな若手研究者を育成するために山口大学版テニュアトラック制度※12を拡充し、魅力ある研究環境を創出します。

3 価値創造の源泉となる学際的基礎研究の推進

国際共同研究と異分野融合研究に対する支援を強化し、基礎研究の卓越性と多様性を高めます。

8. 学際的基礎研究グループの支援強化

基礎研究の卓越性と多様性を強化するために学際的基礎研究を行う研究推進体について、評価方法や支援内容の見直し・改善を行いながら、充実した支援を行います。

9. 重点連携大学※13との共同研究の支援強化

研究分野を主体とした重点連携活動を強化するとともに、多様な教育支援及び国際貢献を目的として選定している重点連携大学※13について、選定基準と支援内容等の見直しを行いつつ支援を充実させ、国際共同研究をより強化します。

4 優れた研究成果を多く生み出すための研究基盤の整備・充実

全学共同利用施設の再編と研究DXの推進により、研究機器共用システムの高度化を実現します。

10 総合科学実験センター施設の合理化によるサービス向上

社会の変化と技術の高度化に対応して、総合科学実験センターにおける施設の管理システムの改善、センター全体の合理化を推進することで、研究者支援のための施設、研究設備・機器、技術及びサービスを向上します。

11 研究設備・機器共用化システムの高度化

研究DXの推進によりすべての研究情報を繋げ、共用機器のコストと成果の見える化、利用料金の共通ルール化等を行います。同時に、新規導入・更新等の際の選定基準となる「共用化指標」等により研究設備・機器への投資効果の見える化を推進することで、研究設備・機器共用化システムの高度化を実現します。

12 機器共用促進や技術職員の高度化による研究者支援体制の充実

リサーチファシリティマネジメントセンターと総合技術部が連携して、研究設備・機器の共用を促進し、技術職員の高度専門技術修得の支援を強化することで、研究者への支援体制を充実します。

5 持続可能な社会への貢献

本学の総合知を結集し、地球温暖化に伴う諸課題の解決とグリーン社会の実現に貢献します。

13. 山口大学グリーン社会推進研究会への積極的支援

山口大学グリーン社会推進研究会へ積極的に研究資金等の支援を行うことにより、研究会から革新的な脱炭素技術やグリーン社会システム等を創出し、SDGs達成に貢献します。